

◎今年もインフルエンザが流行してきました。

浜松労災病院

最近、インフルエンザなんですか？ちがうんですか？はっきりしてください、なんていう母親が増えてきました。

この間なんか、外来受診した発熱の幼児は、周囲にインフルエンザはいない、全身状態もよい、のどが真っ赤であり、インフルエンザではないと言って、親も納得して帰りました。

しかし、翌日、幼稚園からインフルエンザの検査をしてもらえと言われて、再び来院、再検査しました。無事？インフルエンザは陰性でしたが、医者よりもインフルエンザキットのほうが信用される時代になってきたと思いました。今後は、妊娠検査薬のように、コンビニにインフルエンザキットを売ってようになるのでしょうか。

さて次に、インフルエンザと診断した後も一仕事です。タミフル処方してますか？ 私の場合は、十代を除けば、結局、親と相談して納得してもらえたら処方します。嫌がる方も多いので、その時は処方しません。こんなに情報が混乱しては心配症になるのは仕方ありません。シンメトリルの方が副作用が少ない証拠はありませんが、時々処方します。麻黄湯でも結構効きます。

インフルエンザキットもタミフルの副作用でも、最近怪しい情報が多すぎて親は、みんな心配症になっています。先生方も忙しいと思いますが、がんばってたくさん話をしましょう。

(小児科 田中)



◎人間ドックの紹介と受診者における腹部超音波検査の解析

当院では、人間ドックを開設しています。人間ドックでは、さまざまな検査を実施していますが、その中で腹部超音波検査は受診者に苦痛を与えることなく、短時間に有益な疾患情報を得ることができます。そこで、平成19年4月から9月までの6ヶ月間に人間ドックを受診し、腹部超音波検査を実施した240人の状況を集計解析しましたので報告いたします。

男性と女性の受診者数の内訳は、男性が191人、女性が49人で、女性の比率は約20%と低い状況でした。

人間ドックの受診者について、概要と異常所見の分布状況を年齢層別に棒グラフに示しました。(図参照) 受診者の最小年齢は30歳、最高年齢は75歳で、平均年齢は51歳でした。30歳から59歳までは年齢の増加に伴い受診者数の増加を認め、55歳から59歳にピークを認めました。しかし、60歳以降の年齢層から受診者数の減少を認めました。緑色の異常所見を認めなかった受診者は、88名でした。赤色は、異常所見を認めた受診者で、152名、全体の63%と過半数を占めました。

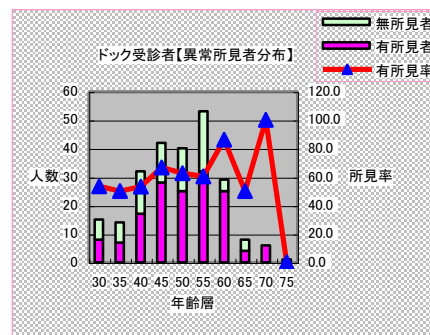
また、年齢別の異常所見率を、赤い折れ線で示しました。60歳から64歳では、86%、70歳から74歳では、100%と非常に高い異常所見率を認めました。

腹部超音波検査の具体的な異常所見は、脂肪肝、肝嚢胞、肝硬変、肝腫瘍、胆嚢ポリープ、胆石、膵管拡張、膵臓腫瘍、消化管粘膜肥厚、腎嚢胞、腎結石、水腎症などが代表的です。日常生活では、気付かれにくいこれらの疾患の早期発見と健康状態の把握は、何よりも重要なことと思われまます。

今回の集計解析より60歳以上の方や女性の方にも積極的に受診していただくことが重要であると思われました。

当院の人間ドックには、さまざまな受診コースがありますので、ご希望に合わせてお気軽にご相談ならびにご紹介いただけますよう宜しくお願い申し上げます。

(検査科 高田・上林)



◎人事異動

(採用) 外科 副部長 寺谷 直樹

てらたに

H6年卒

【専門分野】

外科一般・消化管外科

【資格等】

日本外科学会 外科認定医

日本外科学会 外科専門医

